



## 福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会 ニュースレター

### 1. 福島県社会福祉協議会 会長表彰 感謝状を頂きました

福島県の社会福祉に関するボランティア活動を展開する団体として、表彰を受けました。8月4日パルセいいざか(福島市)で開かれた「第21回ふくしまボランティアフェスティバル」で社会福祉法人 福島県社会福祉協議会会長表彰 受賞式が行われ、塩飽共同代表と神戸理事が感謝状を受けとるために出席しました。

2012年4月、福島市内に事務所を置いてから丸7年が経とうとしています。2011年3月11日に福島県内の児童養護施設に入所していた子どもは、卒園して社会に出た若者も多くなり、本会の活動の幅も子どもの成長に従い幅が広がっています。



### 2. 子どもたちが甲状腺エコーを受け続けるために

2012年12月、超音波診断装置を購入して開始した甲状腺エコー検査は、最初に福島愛育園で実施しました。福島県民健康管理調査(当時)甲状腺検査の案内が来ない子どもを対象に行いました。最初の検査の時は、甲状腺エコー検査の結果を記録する所見用紙はどうか、記録をどのように残すか、児童養護施設内のどこで実施するか、エコー機の画面が見やすいような暗室にするにはどうするかなど、検査を正確に実施することが中心でした。購入したばかりの超音波診断装置を使うために、東芝メディカルシステムズ(当時)の担当者にも来てもらいサポートを受けて実施しました。さらに検査をする医療者は遠方から来るので帰りの新幹線の時間を気にしながら、限られた時間に何人の子どもの検査をすることができるか等も考え、検査が円滑に進むためのマネージメントをしました。施設の職員が、食事や休憩時間、最寄り駅までの足の確保してくれて、最初の検査が終わりました。翌年2月に初回に検査ができなかった特に高学年の子どもが、部活やアルバイト、自動車教習所通いで帰りが遅くなるのを待って、夜9時頃まで検査をしました。当初は3つの施設で、1人でも多く希望する子どもと職員の検査を実施しました。

子どもたちへの説明に着手できるようになったのは開始から2年目、2014年9月、4つ目の施設で検査を開始した時でした(ニュースレター9号、

2014年12月\*)。施設長から、子どもたちに検査の目的や方法について説明してはどうかという提案をもらい、検査前に、子どもが待っている間に見てもらうためのフリップを作りました。本会は以前から実施前に検査の説明をしたいと考えていたので、施設長からの許可をもらえたことは嬉しいことでした。しかし検査中に「壁に貼ってある検査の説明を見た？」と子どもに声をかけられたのは限られた人数で、子どもがどのように理解しているかが、なかなかわかりませんでした。

2015年10月に検査を実施した施設では、フリップを数日前から掲示して、検査の理解や検査前後の子どもの反応について、子どもの世話をする保育士にアンケート形式で報告をもらいました(ニュースレター11号、2015年12月\*)。

この報告を受けて、翌年には1人1人の子どもに目的と結果を伝えようとパンフレットを作ることになりました。このパンフレットには、検査を受けた後で結果の説明を聞きながら、子どもや職員が自分で結果とこれまで検査を受けた回数を記入する

欄を作りました。そして、小学校の中・高学年以上の子どもと職員に渡しました。(ニュースレター13号、2016年12月\*)。



### 3. なぜ甲状腺エコー検査を受けるのか？

2017年1月の検査の時に、「がんになるかもしれないから検査を受けようというアプローチより、自分で進んで健康になろうと考えるようにアプローチするのが健康教育ではないか」という検査ボランティアから助言を受けました。福島の子どもは、原発事故による被曝で発がんの可能性があるので、事故がなければ受けなくてよい検査を受けているのですが、「がんになるから」という負から始まる考え方に疑問を投げかけられました。そこで子どもが進んで検査を受けられるような説明について検討を重ねて「あなたのからだや健康を大切に思っていますよ」というメッセージを伝えられるようにしました（ニュースレター15号、2017年12月\*）。

さらに文字が多かったパンフレットも、原発事故の発生により放射性ヨウ素が甲状腺に入る可能性という説明を絵に替えました。そして結果をわかりやすい言葉、親しみやすい言葉で伝えています。



今年7月の検査から、発達障がいを持つ子どもが理解しやすいような“紙芝居”を作り、検査の数日前に、施設の職員に読み聞かせてもらっています。毎回、検査を実施した施設の職員に評価してもらっています。その一部を紹介します。

幼児～小学校低学年では「わかりやすく説明されていたので紙芝居は大変よかった」「どうして検査をするのか説明が難しいので、子どもだけではなく職員にとってもよかった」。12～18歳の女児のいるホームでは「最初は‘紙芝居って?’と言っていたが、実際に行くと、真剣に聞き入っていた。年齢が上だったので最初は抵抗があったようだ。‘ただの検査でしょ’と言っていた児童が、なぜ検査を受けるのかを説明すると真剣に話を聞くようになった。‘嫌だった’と言いながら検査結果は気になっていた。」「ヨウ素についての説明があったため、放射線と甲状腺の繋がりについて理解できた」という報告をもらうことができました。

また、「検査が2日間あったので、時間帯を選べて良かった」「1人1人検査結果を受取ったり、異常なしと書かれたことに安心して」と、従来から配慮していたことについても、よいフィードバックをもらいました。

児童養護施設には、発達障がいの子どものも入所しています。本会では「発達障がいの子どもの特徴を理解する研修会」を2015年7月～開始しています。通算7回目になる研修会を、11月1日にコラッセ福島で開催し、視覚的にシンボルを使って情報を伝えているこの紙芝居が、発達障がいの子どもの理解の特徴を取り入れている点を紹介しました。甲状腺エコー検査の目的を理解しやすくして、不安を最小限にできるように、さらに子どもが検査を受け続けるために、施設の職員と一緒に取り組んでいます。



## 4. 児童養護施設卒園後の自立支援事業をサポート

福島県は全国に先駆けて、22歳になる年度まで自立のために必要な支援を継続して行う「こどもの巣立ち見守り事業」を2018年4月から開始しました。これまで本会が実施してきた、①「健康手帳」を施設を卒園した若者の住む場所へ職員が届けに行くための交通費補助、②「甲状腺エコー検査」を卒園生が受けに来るために施設職員が迎えに行くための交通費補助が、上記の事業によりカバーされるようになりました。本会の事業は先駆的なものであったことが伺えます。

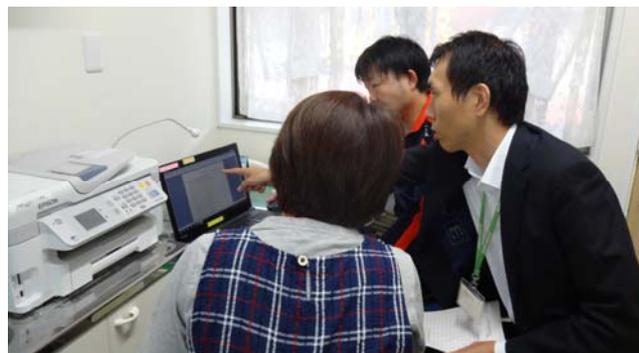
一方、卒園生が甲状腺エコー検査を受けに来るための交通費補助は、県の事業ではカバーされないため、本会は卒園生の支援を継続していきます。

県の事業は、提出する書類が数種類必要になっています。書類の記入内容は、既に関発をしている「すこやか日誌：健康手帳電子化システムに児童支援記録を搭載したソフトウェア」とデータを共有することができる内容ですので、すこやか日誌の拡張機能として、「こども巣立ち見守



り事業支援記録」を福味商事が追加開発し、費用を本会が負担しました。現在、福島県内の6施設で「すこやか日誌」を利用していますが、健康手帳の機能のみを使っている1施設が「こども巣立ち見守り事業支援記録」を追加した児童支援記録ソフトウェアを使用したいという希望があるので、導入費用を施設支援費として本会から拠出する予定です。

このソフトウェアの追加導入により、卒園後の健康に関する記録も施設に残せるようになりました。さらに職員が記録に要する時間を最小限にできて子どものための時間に充てられるよう、記録の電子化を一層進めています。



## 5. 児童養護施設で働く看護師の連携推進

本会は「児童養護施設に従事する看護職等の専門職の連携推進に係わる事業」を掲げて、2013年10月に東北の児童養護施設で働く看護師7名が参集して「第1回看護師勉強会」を開催しました。青森、岩手、宮城、福島から集まりましたが、その時に福島県の児童養護施設で働いていた看護師は、既に離職しています。

児童養護施設で働く看護師は一人職なので、横の繋がりを作る事が間接的に離職防止にも繋がると考えています。福島県内の施設看護師の強い要望により、各施設の看護師が集まって議論する場を再開することが検討されました。そして本会が主催、事務局を担当して、今年6月に県内の4施設で働く看護師が白河学園に集まり、それぞれの仕事の状況を話し合いました。主催が当事者ではないので「福島県の児童養護施設で働く看護師研究会」として再スタートしました。残念ながらその後看護師1人が離職し、看護師が在籍する児童養護施設は福島県内の4施設になりましたが、11月に、第2回目の研究会を開催できました。

高校の養護教諭、そしてスクールカウンセラー

として小学中学生をみてきた高橋看護師(青葉学園)をリソースパーソンとして、「性教育を考える」をテーマに企画したところ、看護師が在籍していない施設も参加したいという要望がありました。そこで午前中は「拡大看護師勉強会」として15名(6施設)で2事例の施設内の性教育について討議して、午後は非常勤の看護師を含む4名の看護師と代表澤田で看護師の性教育に果たす役割などを話し合い、会場の青葉学園の施設見学をさせてもらいました。

今後も、看護師が在職している児童養護施設を会場としてお借りして、研鑽と横の繋がりを作っていくために継続的に会を開催をしていきます。



## 6. 311を過去のことにしないために

平成29年度原子力白書(原子力委員会平成30年7月6日発行)では、原子力の安全利用と原子力発電を依然ベースロード電源として原発依存を続けることが表明されています。全国の原発の再稼働が進められています。さらに事故を起こした原発の廃炉は予定よりも遅れており、廃炉完了までは再臨界の可能性が継続しており、福島県内の児童養護施設の被曝リスクは続いています。

本会では、福島県の児童養護施設が直面した2011年3月原子力災害の被災経験を1つの記録としてまとめた「子どもの未来を守るためのFACT BOOK3.11—福島県の児童養護施設の被災経験—」の発刊を計画しています。

被災の経験を児童養護施設内、福島県内にとどめないで議論の材料にするためのものです。さらに廃炉過程での事故や新たな原子力災害に備えて、「原子力発電所の事故にかかわる緊急時対応マニュアル」福島県児童福祉施設部会(2012年5月発行)の改訂版の作成のきっかけとします。加えて原子力発電所から200キロ圏内に立地する児童養護施設がわかる地図を付けて、施設のリスクを確認することで当該施設の避難マニュアルの整備を推進する事を目的としています。全国約600の児童養護施設で利用できるFACT BOOK3.11を発刊するには資金が足りません。改めて、皆様の温かいご支援を賜りたく、お願いいたします。

## 7. 会費納入、寄付・未使用切手などのご寄付を頂いた皆様(敬称略 順不同)

2018年6月1日～2018年11月20日

日本ルーテル教団、札幌中央ルーテル教会、第70回日本キリスト者医科連盟総会 聖日礼拝献金、京都楽癒コンサート、日本基督教団 大泉教会、日本聖公会 Girls Friendly Society、日本伝道福音教団 新潟聖書教会、女声合唱 かまくらの風 第11回定期演奏会、福味商事株式会社、国際基督教大学高等学校キリスト教活動委員会、萩郷リサイクルバザーグループ、へるす出版「小児看護」編集部

青木 雅子、秋山 道子、荒田 二郎・美代子、石原 潔・真木子、石原 昌子、市川 誠子、井手 初穂、伊東 美詠子、宇井 志緒利、上田 睦子、臼井 美帆子、内丸 ちづ子、遠藤 和子、遠藤 優子、大川 記代子、太田 愛智、太田 一道、太田 和晃、太田 信吉、太田 智恵子、小田 美乃里、木戸 晶子、工藤 美子、神津 陽子、児玉 猛、小西 恭子、小林 美亜、小松 美穂子、齋藤 洋平、齋藤 みさ子、歌津 文男、歌津 マリ子、神田 千鶴、佐々木 豊、佐藤 文子、澤田 和美、澤田 茉季、澤田 稔・保子、塩飽 仁、鈴木 宏幸、鈴木 亮、相馬 ますみ・義憲、高橋 梓、武田 祐子、立川 明朗、田中 千穂、十川 あかり、中田 豊一、名取 智子、鳴海 喜代子、西脇 光一、西田 志穂、馬場 隆、原 久子、古川 恵一・祐子、前島 忻治、丸 光恵、三谷 美香、村上 満子、森 晃野、山田 忠昭、山元 由美子、湯浅 資之、吉村 勉、鈴木 郁子、蝦名 美智子、三原 翠

## 8. 本会の活動に対して下記の団体から助成を頂きました

- 特定非営利活動法人 ジャパン・プラットフォーム 共に生きるファンド  
甲状腺検査を通じた健康教育—生育の困難を考慮した放射線教育—(2018年7月～2019年6月まで)
- 特定非営利活動法人 日本イラク医療支援ネットワーク (JIM-NET) 福島基金  
内部被曝検査(尿中セシウム検査)継続実施事業(2018年10月～)

ホームページもご覧ください <http://www.fukujidou.org>



### 福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会

共同代表 澤田 和美 (福島事務所 事務局長)  
塩飽 仁 (東北大学大学院 小児看護学 教授)  
副代表 丸 光恵 (甲南女子大学大学院 看護リハビリテーション学部 教授)

事務所住所・連絡先 〒960-8055 福島市野田町6-4-74-5 メゾンオーブC203  
e-mail: fukujidou@yahoo.co.jp 電話・FAX: 024 - 573 - 2939

♥略称 ICA福子 (いかふくこ) Foster Care for **I**nfants, **C**hildren and **A**dolescents in FUKUSHIMA

ご支援先

♥ゆうちょ銀行

店名：二二九店 (店番号229)  
種類：当座預金  
番号：02220 - 2 - 118684  
名称：福島児童養護施設の子どもの健康を考える会

♥大東銀行

店名：福島西支店(店番号047)  
種類：普通預金  
番号：1303901  
名称：福児童 代表 澤田和美

♥三井住友銀行

店名：白山支店  
種類：普通  
番号：6854164  
名称：福児童 代表 澤田和美

本会は助成金や皆様からのご寄附により、活動を続けています。これまでのご支援に感謝申し上げますと共に、新しい事業のための資金が必要です。ご支援をお願い申し上げます。

書き損じはがき、未使用切手による寄附も大歓迎です。